

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 78 「自信と、自身」前場 康介 (跡見学園女子大学)

1) 学会からのお知らせ

■新理事長からの挨拶: 第6期理事長 田中共子 (たなかともこ)
先頃は本学会の選挙へのご協力を有り難うございました。このほど学会の役員が、第六期メンバーに交代いたしました。竹中晃二前理事長をはじめ、第五期に学会運営にご尽力くださいました皆様に、深く感謝いたします。時代と共に学会の役割も活動も少しずつ変わっていきます。この社会の中で本学会の確かな歩みを重ねていきますよう、今期もよろしく願いいたします。

*新理事長からの挨拶が本学会 HP に掲載されましたので、ご覧ください。

<http://jahp.wdc-jp.com/about/main1.html>

■委員会活動へのお誘い: 新理事会より

本明記念賞、倫理、広報、国際、研究推進、機関誌編集、資格認定、研修の各委員会と事務局は、新体制に移行します。ほか特設の委員会を含めると、各種委員はのべ約70人超です。活動へのお誘いには、積極的にご参加いただければ幸いです。委員会、年次大会、投稿など、学会活動を作るのは会員自身です。一緒に活性化を図っていきましょう。

2) 健康心理学コラム Vol. 78

「自信と、自身」

前場 康介 (跡見学園女子大学)

「将来何がやりたいのか、全然分からないんです。」「自分の長所が思いつきません。短所ならいくらでも言えるんですけど…。」。大学教員となって以降、学生からこのような悩みを聞かない日はありません。表現は数あれど、いずれも共通するのは「自信がない」という訴えです。私には、この言葉が「自身がない」とも聴こえます。

進路選択領域では、セルフ・エフィカシーは中核的な概念として古くから扱われてきました。セルフ・エフィカシーは4つの主要な情報源から影響を受けると考えられています。最も強いインパクトを持つのは、「遂行行動の達成」と呼ばれる、当該行動について実際の成功体験を重ねることだとされています。しかし、就職活動に代表される進路選択行動は、実際の体験を得る機会自体が少なく、この情報源を効果的に適用しづらいという問題があります(浦上, 1993)。より重要となるのは、他者を通じて得られる情報源、つまり「モデリング」と「言語的説得」であると考えます。こうした仮定のもと、情報源を測定するための尺度を開発し、その定量化に基づく介入がどのような効果を有するのかを検討することが私の研究テーマとなっています。また、学生が自分では意識していない潜在的なことばの結びつきについて、IRAP (Implicit Relational Assessment Procedure) という潜在連合テ

ストを用いて検証することも行っています。

「選ばなければ仕事はいくらでもある」と言われる現代ですが、自己表現そのものの場ともいえる職業を「選べない」ことは、耐え難い苦痛を伴うものです。確固たる自信から「自身」を取り戻し、主体的な進路選択を行うことができる学生が一人でも増えることを、この研究を通して日々願っています。

文献

浦上昌則 (1993). 進路選択に対する自己効力と進路成熟の関連. 教育心理学研究, 41, 358-364.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>